

# AGI 東アジア 12 カ国・地域経済動向

東アジア 12 カ国・地域の経済動向を、主要統計のグラフとアジア成長研究所（AGI）の研究員による解説とともにお知らせいたします。（2015 年第 4 四半期）

## グラフの読み方

図 1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率 一国経済の基本的な経済動向を読む

- 実質 GDP 国内総生産（GDP：Gross Domestic Product）は、国内で生み出された財・サービスの付加価値の総計である。GDP には名目値と実質値があり、そのうち実質 GDP の伸び率は経済成長を測る代表的な指数である。
- GDP デフレータ 名目 GDP を実質 GDP で除した値として計算される。その伸び率は、名目 GDP の価格上昇分を表し、インフレの程度を知ることができる。GDP デフレータのプラスの伸び率が高いほどインフレ傾向にあり、マイナスの伸び率が高いほどデフレ傾向にある。

図 2：貨幣供給量と国内信用の伸び率 政府の金融政策と景気の間接関係を読む

- 貨幣供給量 経済全体に流通している貨幣の総量。通常、金融政策は中央銀行が貸出や公定歩合操作、債券売買や外為市場介入等を行うことによって実施される。金融政策により貨幣供給量が増加すれば、短期的には経済が拡大するが、長期的には貨幣価値が下がるので物価の上昇を招きやすい。M1 とは現金の流通額と預金（当座預金、普通預金等）を合わせたもので、M2 は M1 に定期預金、外貨預金等を合わせたものである。
- 国内信用 銀行部門の貸出等（信用）の総額。政府向け信用と民間向け信用に大別される。政府向け信用は主に銀行の国債保有残高、民間向け信用は主に企業向け貸出額にあたる。この伸び率が高ければ、国内市場に循環する資金が増加したことを示す。なお、一部の国では国内債権（Domestic Claims）を使用している。

図 3：消費者物価指数、株価指数、為替レート指数 インフレと景気動向を読む

- 消費者物価指数 消費者が購入する財・サービスの価格を加重平均したもの。インフレの程度を測る代表的な指数である。指数が上昇すればインフレ傾向にあり、下落すればデフレ傾向にある。
- 株価指数 株式市場の上場銘柄全体の値動きを表す指標である。景気（および人々の期待）の動向を知ることができる。指数の継続的な上昇は好況を、継続的な下降は不況を示唆する。
- 為替レート指数 本国通貨と米ドルとの交換レート（ドル／本国通貨）。指数の上昇は本国通貨高、下落は本国通貨安を示す。本国通貨高は輸入価格の下落により、輸入がしやすくなる一方、対外的に見て、輸出価格が上昇するので輸出が難しくなる。

図 4：輸出額と輸入額 対外経済部門の動向を読む

- 輸出額 輸出数量×輸出価格。輸出は外貨獲得の重要な手段である。
- 輸入額 輸入数量×輸入価格。資本財や中間財の輸入は国内の生産能力を増大させ、消費財の輸入は消費者の満足度を高める。



公益財団法人 **アジア成長研究所**

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11-4 / TEL：093-583-6202 / URL：<http://www.agi.or.jp>

# 日本の経済指標

図1：実質GDPとGDPデフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

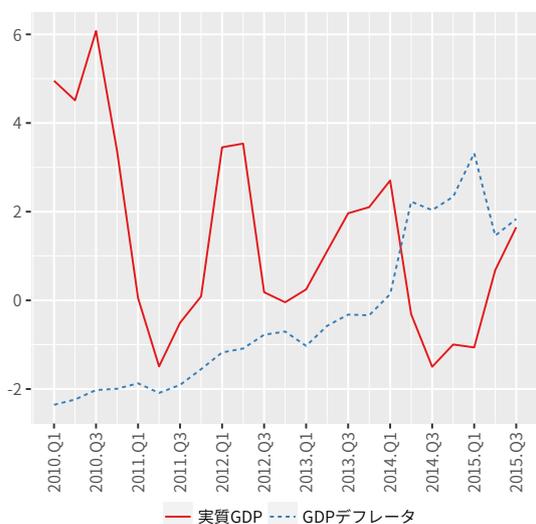


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

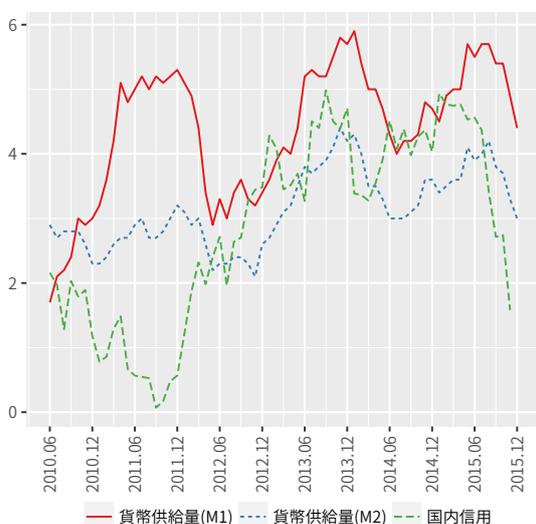
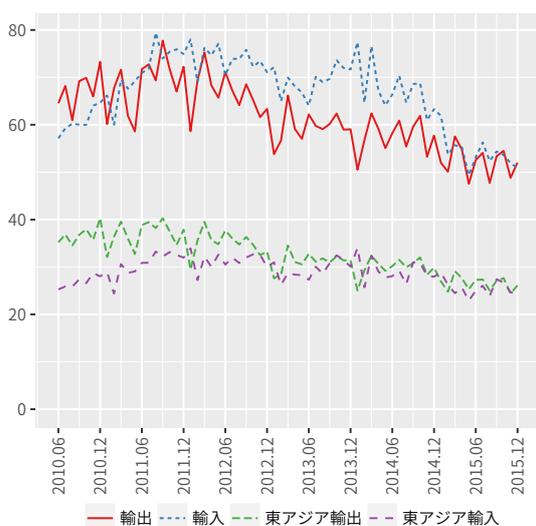


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)



図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



## 日本経済の動向 (2015年第4四半期)

回復基調といわれている日本経済だが、ここ数カ月の貨幣供給量の伸び率の鈍化が目立ち、貿易額も中期的に減少傾向で、政策目標でもある物価もあまり上昇していないようだ。昨年末ギリギリのところ、日韓の慰安婦問題が「最終的かつ不可逆的に」解決されたが、年明け早々北朝鮮の核実験疑惑、通称「IS」によるテロ、原油価格の下落、中国株価の下落といった海外からの負の材料が重なり、日経株価は大きく下落した。国内においても、常時世間をにぎわす事件が起こっており、経済再生担当の甘利大臣も金銭授受疑惑で辞任に追い込まれた。そんな中、1月末に日銀はマイナス金利を導入することを決定した。これは、「カネ」の流れを貯蓄（蓄える方向）から投資（使っていく方向）に向かわせ、経済を活性化させる効果が見込まれる半面、成功しても今度は金利を上げるタイミングが見えづらく、失敗すると次の手が打てなくなるといった副作用もある。「安心してください！」とはとてもいえないのが日本経済の現状である。 (坂本 博)

# 中国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

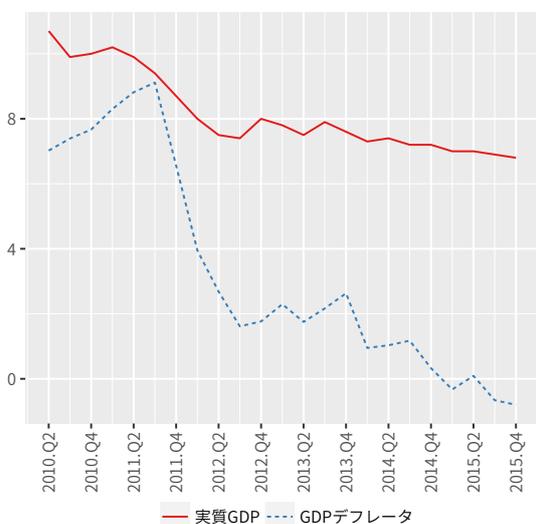


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)



図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



## 中国経済の動向 (2015年第4四半期)

国家統計局の公表(速報値)によると、中国の2015年第4四半期の実質GDP成長率は、前年同期比6.8%にとどまり、第3四半期の6.9%に続き二期連続で7%割れとなった。また、中国の2015年通年の実質GDP成長率も、前年比6.9%増に鈍化し、「天安門事件」の影響で経済が冷え込んだ1990年以来的の低い伸びとなった。この年成長率は、政府が設定した7%の目標に届かなかったものの、これが正確な統計であれば決して低い数値ではないと言える。しかし、中国の経済減速実態は公表値よりも深刻で生産過剰・輸出低迷そして金融機関の不良債権の増大による経済成長率の落ち込みが今後も続く、と懸念している専門家は国内外に少なくない。中国経済の先行きに対する不安が高まっているなか、新年早々の2016年1月に、上海株価指数が20%以上急落し、人民元対米ドルの為替レートも5%以上安くなった。不穏な経済情勢が続く中、2015年12月25日に中国主導のアジアインフラ投資銀行(AIIB)が正式に発足した。(戴 二彪)

## 香港の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

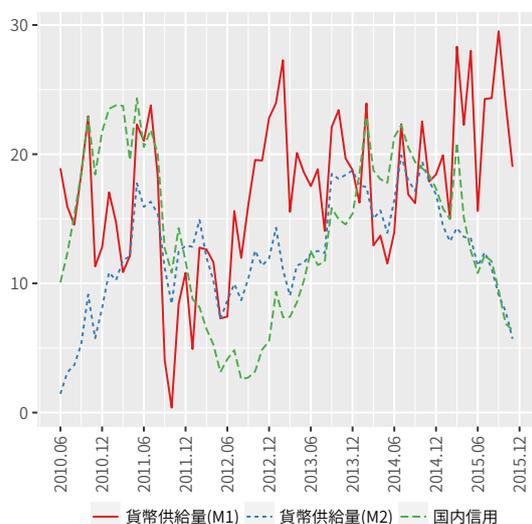


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)

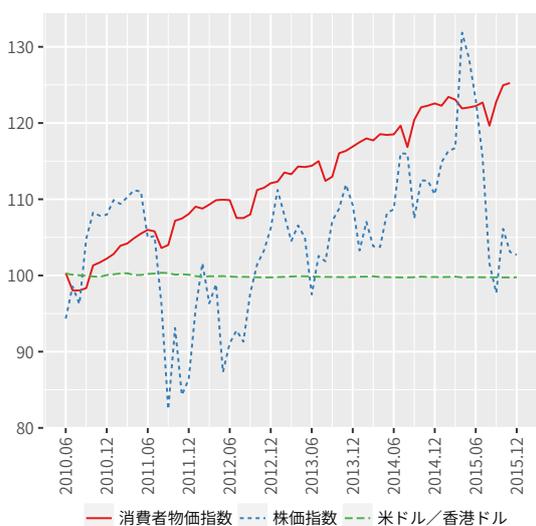
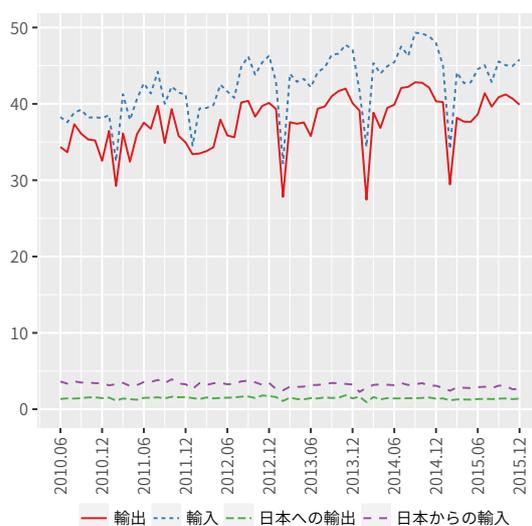


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 香港経済の動向 (2015年第4四半期)

香港の2015年第3四半期の実質GDPの伸び率は、前年同期比で2.3%増となり、2015年第2四半期と第1四半期の同伸び率(それぞれ2.8%増と2.4%増)から減速した。対外輸出の不振が続いていたとともに、域内需要についても、個人消費は堅調を保ったものの民間投資が低迷しているためである。2015年第3四半期の商品輸出は、対前年同期比で3.2%減と2期連続で減少した(第2四半期は同3.6%減)。また、中国本土からの観光客数の伸び悩みや国際貨物貿易に関するサービス業務の低迷により、第3四半期の香港のサービス輸出も、前年同期比で1.3%減となった。一方、2015年第3四半期の個人消費は前年同期比4.3%増となったが、投資支出は対前年同期比で6.5%減と低下した(2015年第2四半期は6.5%増)。中国経済をはじめとする世界経済の減速およびその先行きへの不安の影響で、香港の株価指数は、2015年4月高値の28,000台から9月末の20,000台に大きく下落し、さらに2016年1月には一時18,000台に急落した。(戴 二彪)

## 韓国経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

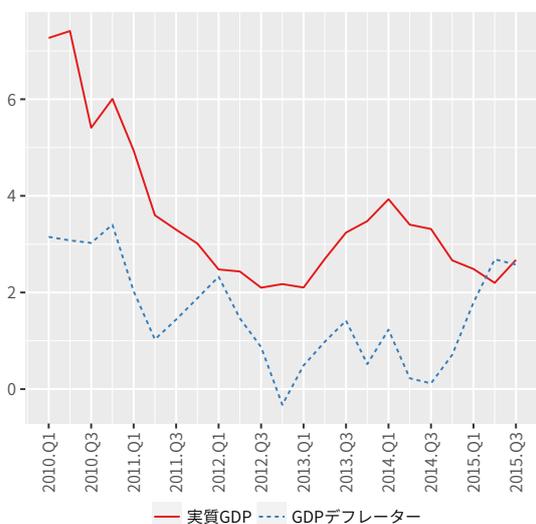


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)

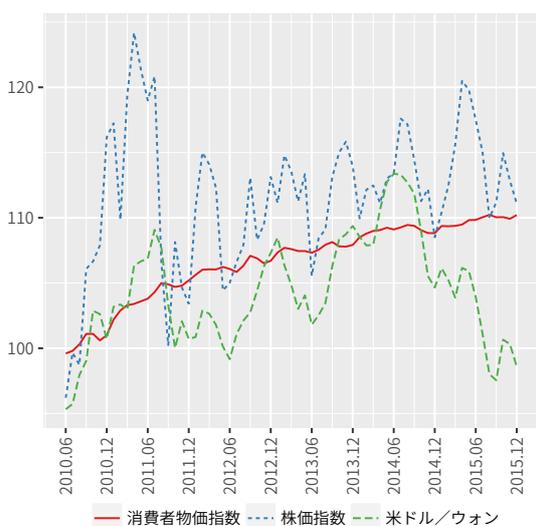
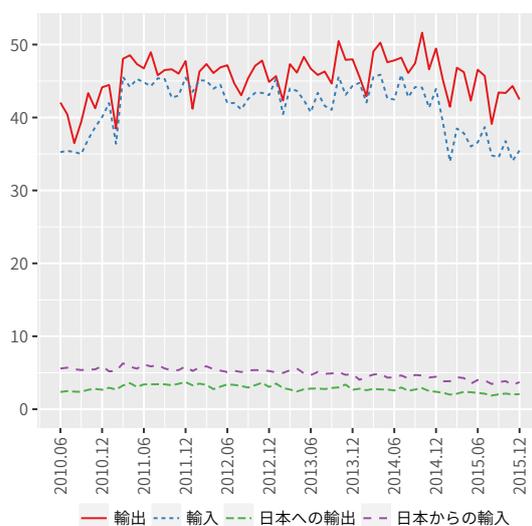


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 韓国経済の動向 (2015年第4四半期)

韓国の2015年第3四半期の実質GDPは前年同期比で2.67%増加した。2014年に入ってから2%台の伸び率が続き、経済の低成長が観測される(図1)。韓国銀行によれば、中東呼吸器症候群(MERS)の影響で大きなダメージを受けたサービス業であったが、個別消費税の引き下げや10月に実施した「韓国版ブラック・フライデー」など、政府主導の消費奨励・内需活性化政策によって消費回復の効果があつた。また、政府消費や建設業などの部門では伸びているが、製造業の成長は鈍化している。対米ドルウォン高の傾向は続き、輸出不振と製造業分野の低迷に繋がっている。さらに中国の経済成長鈍化などの新興国リスクが大きく、2015年の輸出額は前年に比べて大幅に減少している。しかし、それ以上に輸入額も減少しているため、貿易収支は前年より倍増し、2015年は史上最大の黒字収支を記録した。対日貿易は慢性的な赤字収支が続いているが、2011年から貿易額が減少しており、赤字幅も縮む傾向にある(図4)。 (韓 成一)

## 台湾の経済指標

図 1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図 2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

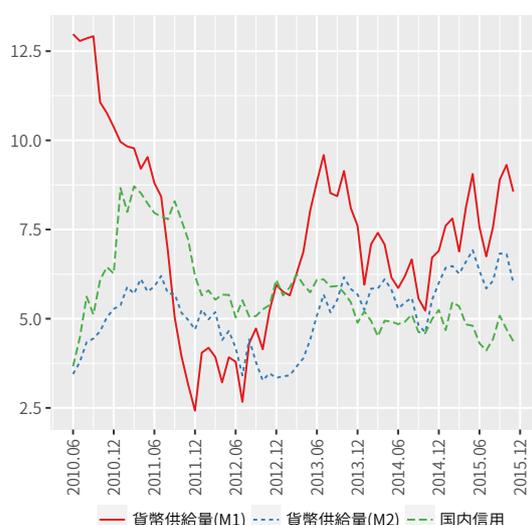
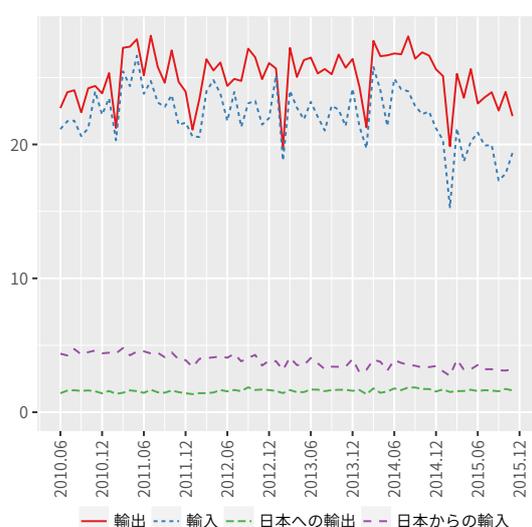


図 3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)



図 4：輸出額と輸入額  
(10 億米ドル)



### 台湾経済の動向 (2015 年第 4 四半期)

最近の台湾の経済成長率は、2015 年第 1 四半期の 4.04 % をピークに低迷し、第 2 から第 4 四半期には各々 0.57 %、-0.63 %、0.49 % を記録している。2015 年通年では 1.06 % で、GDP は 5,244.9 億米ドル (1 人当たり 2 万 2,355 米ドル)、消費者物価指数 (CPI) 伸び率は -0.31 % であった。2015 年は、景気減速と投資意欲減退により、台湾国内での民間投資額が 10 年来で初めて目標に到達しなかった (投資額 1 兆 3,400 億台湾元=約 4 兆 7,000 億円、達成率 95.8 %)。国際貿易の落ち込みも顕著で、2015 年通年で輸出総額は 2,805 億米ドル、輸入総額は 2,289 億米ドルで、各々対前年比 -10.6 % と -16.5 % の負の伸び率であった。うち輸出に関して、主要相手国・地域別にみると、最大の相手国である中国・香港が -12.3 %、その他、ASEAN 6 カ国 -14.6 %、欧州 -11.0 %、日本 -3.1 %、米国 -1.7 % と軒並み負の数値である。なお、2016 年の経済成長率は 2.32 % と予測されている (2015 年 11 月 27 日付の行政院主計総處資料)。(岸本千佳司)

## インドネシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

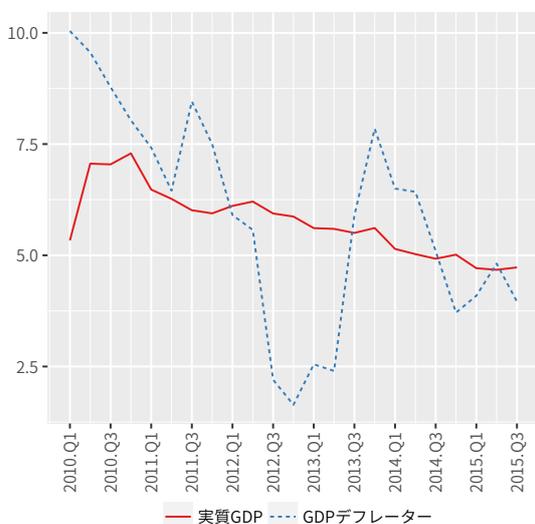


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)

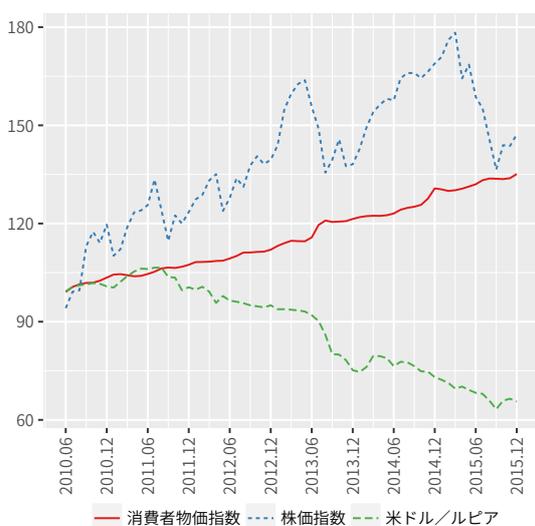


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### インドネシア経済の動向 (2015年第4四半期)

2015年第3四半期における実質 GDP の前年同期比は、第1四半期、第2四半期と同じく4.7%となった。2010年には7%台、2011年から2014年にかけては6%台から5%台へと推移してきたインドネシア実質 GDP (前年同期比) は、引き続き4%台へと落ち込み、勢いを欠いている(図1)。インドネシアの主要輸出先国である中国の経済減速と一次産品の価格低迷が、インドネシア経済の勢いに影を落としていると考えられる。貿易収支は、2015年第1四半期・第2四半期・第3四半期に続いて2015年10月、11月においても黒字であったが、同年12月には赤字となっている。貿易量は、依然として輸出・輸入ともに縮小傾向にある(図4)。インドネシアの豊富な天然資源の内需への優先利用あるいは環境保護などを目的とする一次産品等の輸出規制が、貿易収支に多少なりとも影響を及ぼしているのかもしれない。勢いを欠く景気を反映し、株価指数は2015年3月より下落基調にある(図3)。(今井健一)

## マレーシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

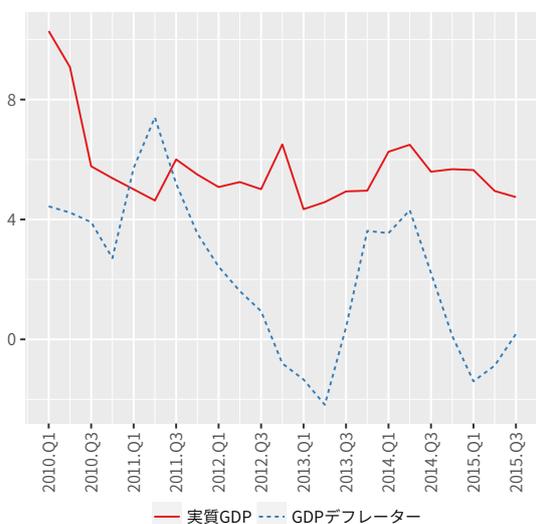


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)

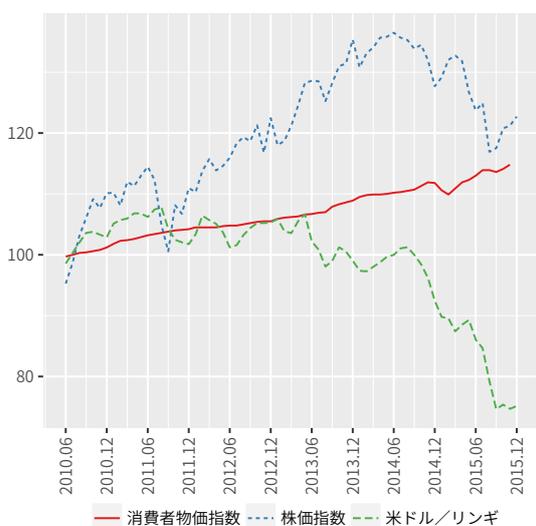
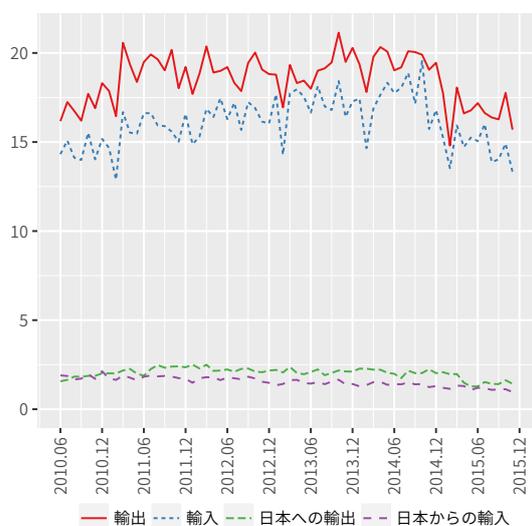


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### マレーシア経済の動向 (2015年第4四半期)

2015年第3四半期の実質GDPの伸び率は前年同期比4.7%と前期4.9%から更に低下し、3四半期連続の減速となった。その背景には、4月の物品・サービス税(GST)の導入により個人消費が同4.1%と前期の6.4%から一層鈍化したことなどがあげられる。しかし、急速に進むリンギット安による価格競争力の向上が、機械や電子部品を中心とした輸出の回復、またそれともなう投資の拡大をもたらすなど、プラス材料もみられた。ただ、資源需要の早期回復が期待できないことから、資源関連輸出の低調は続く見通しである。したがって、石油関連の歳入が不足する状況はしばらく続くことが予想され、国家財政への悪影響が懸念される。2015年7月に発覚したナジブ首相周辺に対する政府系投資会社1MDB(1 Malaysia Development Berhad)からの資金供与疑惑の問題に関しては、調査にあたってきたアパンディ司法長官が汚職を示す証拠はないという見解を示したが、政情不安の払拭までには至っていないようだ。(新見陽子)

## フィリピンの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

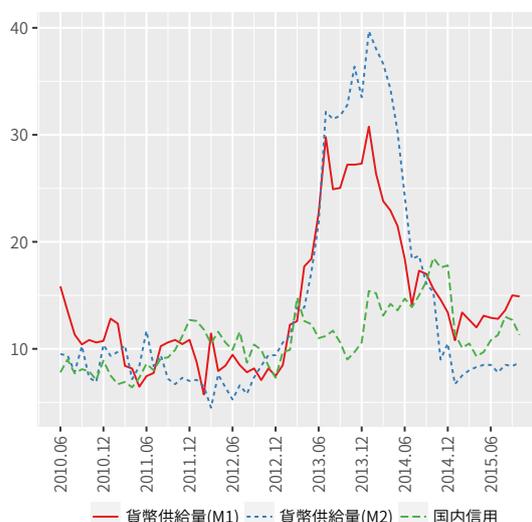


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)

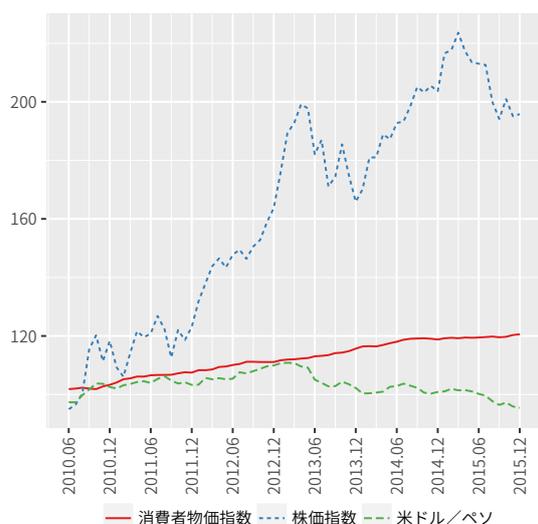
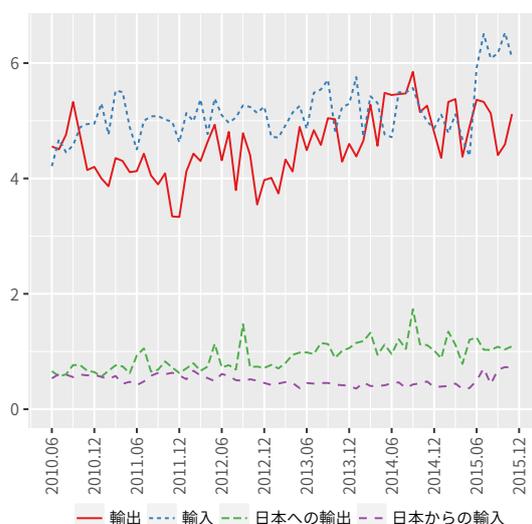


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### フィリピン経済の動向 (2015年第4四半期)

フィリピンの2015年第3四半期の実質 GDP の伸び率は、前年同期比 6.0 % と前期の同 5.8 % より小幅に加速した(図1)。内需はどの項目も堅調であったが、政府消費は予算執行の円滑化を受けたことにより、同 17.4 % と最も大きく伸びた。加えて、個人消費は海外労働者からの送金の増加やインフレ率の低下(図3)にとともに、また総固定資本形成は高調な設備投資とインフラ整備を反映し、いずれも大きく(それぞれ同 9.3 % と同 6.3 %) 上昇した。一方、外需についてみると、輸入は底堅い内需を背景に 13.5 % も伸びたものの、鈍化する中国経済の影響などで輸出は伸び悩み(同 6.4 %)、純輸出がマイナスに働いたことが成長率を押し下げた(図4)。2016年5月には6年に1度の大統領選挙が実施されることになっており、それまでは選挙関連支出の増加にとともに景気が好調に推移し、選挙後は伸び率が若干鈍化すると予想されている。

(チャールズ・ユウジ・ホリオカ)

## シンガポールの経済指標

図 1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

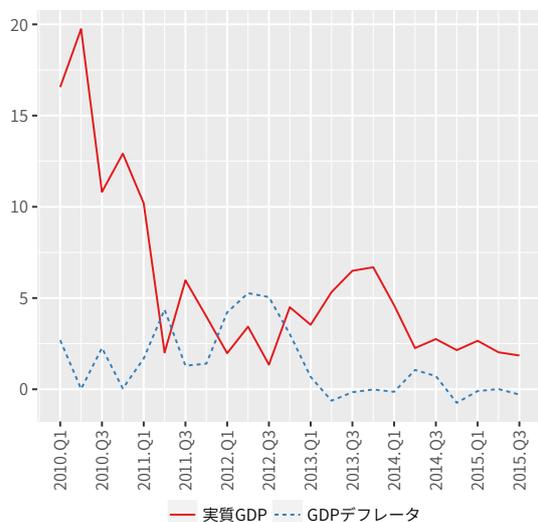


図 2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

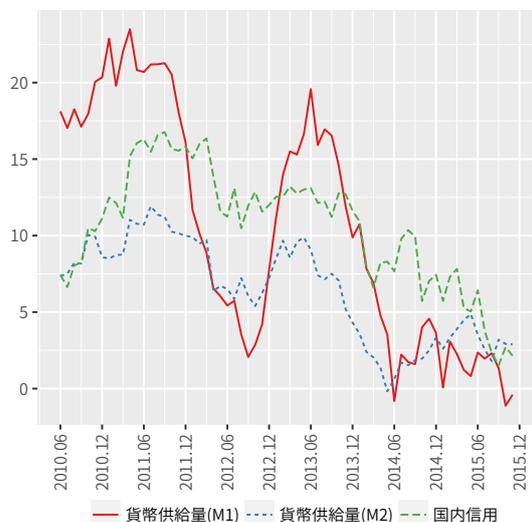


図 3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年 = 100)

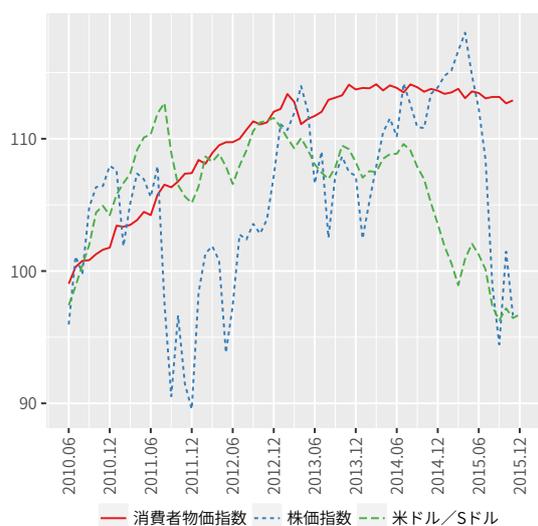


図 4：輸出額と輸入額  
(10 億米ドル)



### シンガポール経済の動向 (2015年第4四半期)

2015年第3四半期のシンガポールの実質 GDP の伸び率は前年同期比で 1.85 % であった。この結果, 2015年 1~9 月の実質 GDP の伸び率は前年同期比で 2.18 % となった。通商産業省 (MTI) は, 2015年第4四半期の実質経済成長率の予測値を 2.0 %, 2015年通年での予測値を 2.1 % と, さらに 2016年では 1.0~3.0 % と予測しており, しばらくは緩やかな成長がつづくことが見込まれている。消費者物価指数は 13 カ月連続して前年同月比で下落しており, 最近の下落率は -0.8 % 程度で推移している。食品やサービスの価格は上昇しているものの, 住居やエネルギー, COE (車両購入権) の価格低下が続いている。シンガポール金融管理局 (MAS, 中央銀行) は 2015年通年でのインフレ率を -0.5 %, 2016年を -0.5~0.5 % と予測している。シンガポールドル安の影響もあり, 米ドルベースでの貿易額は大きく減少しており, 2015年の輸出額と輸入額は前年比でそれぞれ 14.47 % と 18.98 % のマイナスであった。(田村一軌)

## タイの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

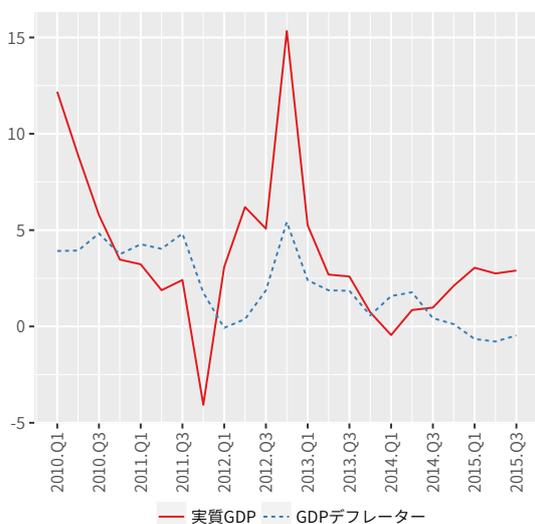


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)

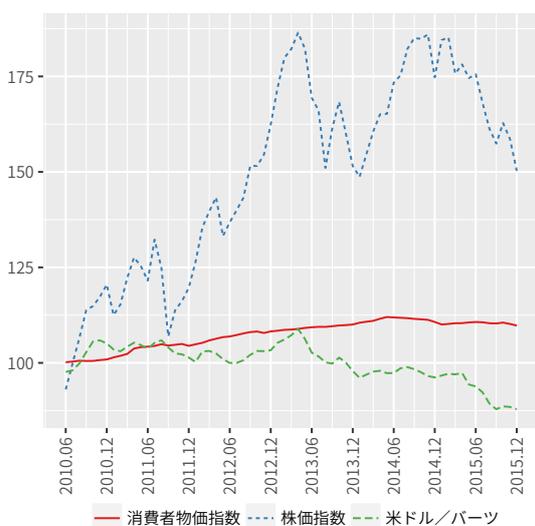
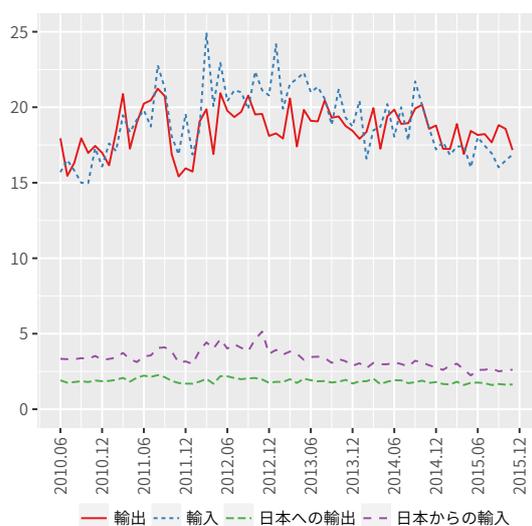


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### タイ経済の動向 (2015年第4四半期)

2015年第3四半期のタイの実質GDPの伸び率は前年同期比で2.90%となり、前期の2.75%からやや上昇した。国家経済社会開発庁(NESDB)は、2015年のGDP成長率を2.9%、2016年を3.0~4.0%と予測している。このところデフレ傾向が続いており、GDPデフレータの伸び率は3期連続でのマイナスとなった。消費者物価指数は12ヵ月連続して前年同月比でマイナスとなっているものの緩やかな回復傾向にあり、中央銀行は2015年のインフレ率の予測値を-0.9%としているが、2016年には0.8%の物価上昇を予測している。株価指数は下落傾向が続いており、この1年でおよそ13%の大幅下落となった。貿易額は減少傾向にあり、第3四半期の輸出額は前年同期比で-5.27%と、3期連続でのマイナスとなった。一方、経済の下支えとしての役割が期待される観光分野では、2015年の外国人観光客数は2,988万人となり、8月に発生した爆弾テロ事件の影響も見られたものの、前年の2,480万人からおよそ20%の増加となった。(田村一軌)

## ベトナムの経済指標

図1：実質 GDP の伸び率

(前年同期比, %)

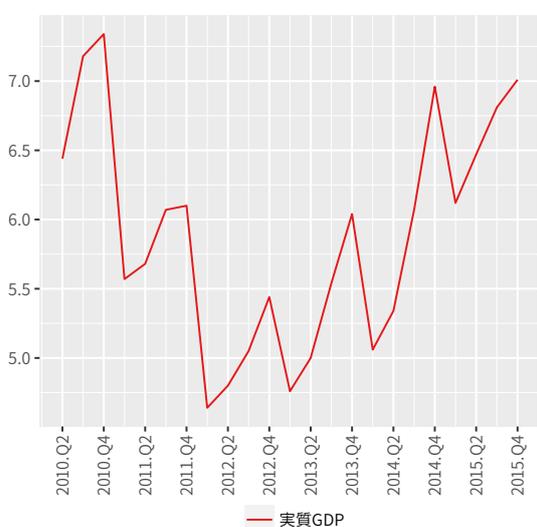


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率

(前年同月比, %)

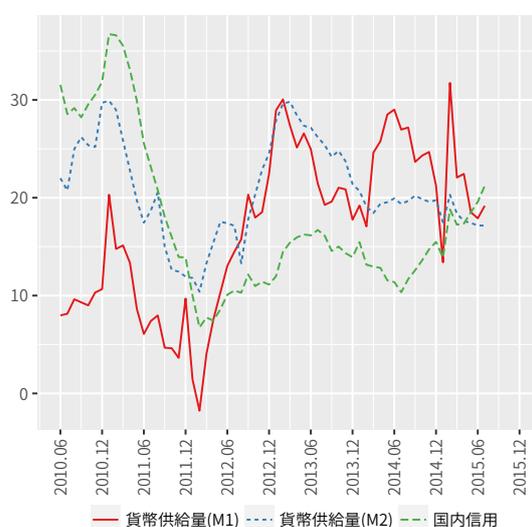


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数

(2010年=100)

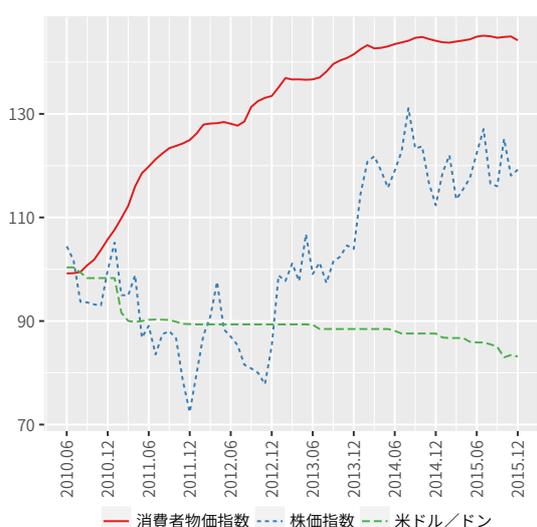


図4：輸出額と輸入額

(10億米ドル)



### ベトナム経済の動向 (2015年第4四半期)

2015年第4四半期の実質 GDP の伸び率は7.0%であり、2014年第3四半期以降の比較的高い成長が続いた。2014年の1人当たり名目 GDP が22万円弱の国にとって、高成長をどのように保つが以前からの最大政策課題である。以前からインフレ圧力が低水準に弱まっており、2015年1月以降は消費者物価指数の月次伸び率が1%未満にとどまった。他方、2011年第1四半期から減速していたドン/米ドルの下落が再びゆるやかに加速した。2015年の輸出額の伸び率は比較的低い7.9%にとどまった。高成長を反映し、同期の輸入額の伸び率は比較的に高い11%であったが2013~2014年の13~15%を下回った。マクロ安定化を受けて、政府や中央銀行はインフレの管理から成長促進へ重点を置き換えている。しかし、商品輸出・輸入それぞれが GDP の8割を占めているので、金融・財政政策はあまり効果的ではない。なお、金融機関の強化や国営企業の民営化等が課題であるが、構造的な制約が大きい。

(エリック・ラムステッター)

## インドの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

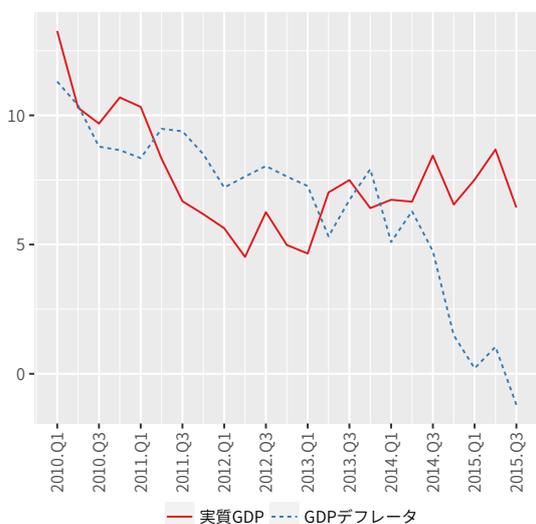


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2010年=100)

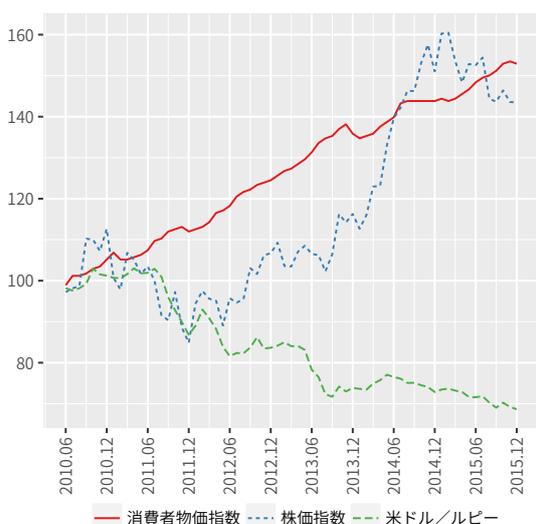
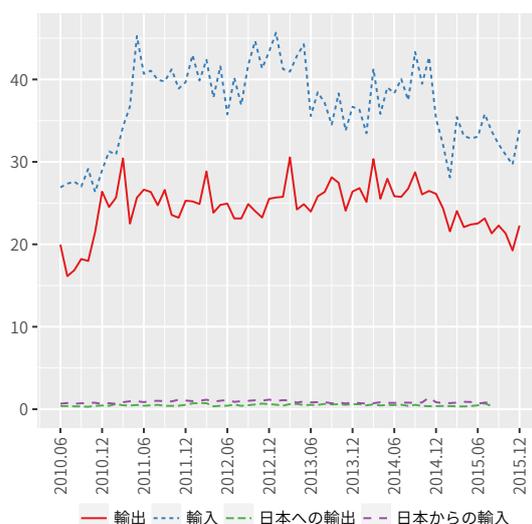


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### インド経済の動向 (2015年第4四半期)

2016年2月の発表によると、2015年の実質GDPの伸び率は前年同期比で第2四半期に8.7%、第3四半期に6.4%、第4四半期に9.2%の比較的高い水準を保った。他方、消費者物価指数の伸び率(前年同月比)は2015年7~9月の4.4~5.1%から10~12月には6.4~6.7%にまで上昇したものの、インフレ圧力は依然として弱い状態が続いている。これを受けて、中央銀行は政策金利(repo rate)を9月末に6.75%の比較的低い水準に設定して以降変更していない。今後も弱いインフレ圧力が継続すれば、政策金利をこのまま維持するか、あるいはさらに引き下げる可能性が高いが、財政赤字のGDP比が5%近くと高水準であり、財政政策で成長を刺激することが困難である。なお、2014年5月に誕生した新政権の下で経済成長率は緩やかに上向くと予測され、平均株価が急上昇したが、2015年2月末のピークに比べて2015年末には11%下落した。

(エリック・ラムステッター)

## 図に関するデータの出所および注

### 日本：

- 図 1 内閣府経済社会総合研究所 (<http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>)
- 図 2 日本銀行 (<http://www.stat-search.boj.or.jp/index.html>)
- 図 3 消費者物価指数：総務省統計局 (<http://www.stat.go.jp/data/cpi/sokuhou/tsuki/index-z.htm>)；株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/q/hp?s=%5EN225>)；為替レート指数：日本銀行 (<http://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/mtshtml/m.html>)
- 図 4 財務省 (<http://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/time.htm>)；東アジアは中国、香港、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの合計

### 中国：

- 図 1 China, National Bureau of Statistics (<http://www.stats.gov.cn/english>)
- 図 2 China, The People's Bank of China (<http://www.pbc.gov.cn>)
- 図 3 消費者物価指数：China, National Bureau of Statistics (<http://www.stats.gov.cn/english>)；株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/q/hp?s=000001.SS>)；為替レート指数：International Monetary Fund, *IMF Exchange Rates* (<http://www.imf.org/external/np/fin/ert/GUI/Pages/CountryDataBase.aspx>)
- 図 4 China, General Administration of Customs, *China's Customs Statistics, (Monthly Exports & Imports)* ([http://www.chinacustomsstat.com/asp/1/NewData/Stat\\_Data.aspx?State=1&next=3](http://www.chinacustomsstat.com/asp/1/NewData/Stat_Data.aspx?State=1&next=3))

### 香港：

- 図 1, 図 4 Hong Kong, Census and Statistics Department, Hong Kong Statistics, Quick Links of Statistical Products (<http://www.censtatd.gov.hk/hkstat/quicklink/index.jsp>)
- 図 2, 図 3 Hong Kong, Monetary Authority, Monthly Statistical Bulletin (<http://www.hkma.gov.hk/eng/market-data-and-statistics/monthly-statistical-bulletin/>)

### 韓国：

- 図 1, 図 2, 図 3 Korea, Bank of Korea (<http://www.bok.or.kr>)
- 図 2 国内債権：International Monetary Fund, *International Financial Statistics, September 2015 CD-ROM*
- 図 3 株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/q/hp?s=%5EKS11>)
- 図 4 Korea, Korea Customs Service (<http://customs.go.kr>)

### 台湾：

- 図 1 Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<http://statdb.dgbas.gov.tw/pxweb/dialog/statfile1L.asp>)
- 図 2 Republic of China, Central Bank of China (<http://www.cbc.gov.tw/content.asp?mp=2&CuItem=2069>)
- 図 3 消費者物価指数：Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<http://eng.stat.gov.tw/ct.asp?xItem=12092&ctNode=1558&mp=5>)；株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/q/hp?s=%5ETWII>)；為替レート指数：Republic of China, Central Bank of China (<http://www.cbc.gov.tw/ct.asp?xItem=1880&ctNode=511&mp=2>)
- 図 4 Republic of China, Customs Administration, Ministry of Finance, *Trade Statistics Search* (<https://portal.sw.nat.gov.tw/APGA/GA03E>)

### インドネシア：

- 図 1, 図 4 Indonesia, Statistics Indonesia (<http://www.bps.go.id>)
- 図 2 Indonesia, Bank Indonesia, *Indonesian Financial Statistics* (<http://www.bi.go.id/en/statistik/seki/terkini/moneter/Contents/Default.aspx>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/q/hp?s=%5EJKSE>)；2011年7月までの消費者物価指数および2011年6月までの為替レート：International Monetary Fund, *International Financial Statistics, September 2011 CD-ROM*；2011年8月以降の消費者物価指数：Indonesia, Statistics Indonesia (<http://www.bps.go.id/linkTabelStatis/view/id/907>)；2011年7月以降の為替レート：Indonesia, Bank Indonesia (<http://www.bi.go.id/en/moneter/informasi-kurs/referensi-jisdor/Default.aspx>)

#### マレーシア：

- 図 1, 図 2, 図 3, 図 4 Bank Negara Malaysia, *Monthly Statistical Bulletin*, various issues (<http://www.bnm.gov.my/index.php?ch=statistic&lang=en>)
- 図 2 国内債権：International Monetary Fund, *International Financial Statistics*, December 2015 CD-ROM
- 図 3 株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/q/hp?s=%5EKLSE>)
- 図 4 日本との輸出入：Malaysia, Department of Statistics, *Monthly External Trade Statistics Online* (<http://trade.stats.gov.my/tradeV2/mainEN.php>)

#### フィリピン：

- 図 1 Philippines, National Statistical Coordination Board, *National Accounts of the Philippines*, various issues (<http://www.nscb.gov.ph>)
- 図 2, 図 3 Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Economic and Financial Statistics* ([http://www.bsp.gov.ph/statistics/statistics\\_key.asp](http://www.bsp.gov.ph/statistics/statistics_key.asp))
- 図 3 株価指数：Bloomberg ([http://www.bloomberg.co.jp/apps/cbuilder?T=jp09\\_&ticker1=PCOMP%3AIND](http://www.bloomberg.co.jp/apps/cbuilder?T=jp09_&ticker1=PCOMP%3AIND))
- 図 4 Philippines, National Statistical Office, *Foreign Trade* (<http://www.census.gov.ph/business/foreign-trade>)

#### シンガポール：

- 図 1 Singapore, Ministry of Trade and Industry, *Economic Survey of Singapore* (<https://www.mti.gov.sg/ResearchRoom/Pages/Economic-Surveys-ESS.aspx>)
- 図 2 Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<http://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin.aspx>)
- 図 3 消費者物価指数：Singapore, Department of Statistic, *Monthly Digest of Statistics Singapore* (<http://www.singstat.gov.sg/publications/publications-and-papers/reference/mdscontents>)；その他：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<http://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin.aspx>)
- 図 4 Singapore, Department of Statistic, *Monthly Digest of Statistics Singapore* (<http://www.singstat.gov.sg/publications/publications-and-papers/reference/mdscontents>)

#### タイ：

- 図 1 Thailand, National Economic and Social Development Board (<http://www.nesdb.go.th/Default.aspx?tabid=95>)
- 図 2 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial>)
- 図 3 消費者物価指数：Thailand, Ministry of Commerce, Bureau of Trade and Economic indices (<http://www.price.moc.go.th/en>)；その他：Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/FinancialMarkets>)
- 図 4 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial>)

#### ベトナム：

- 図 1 2015 年第 3 四半期まで：Vietnam, General Statistics Office, *Monthly Statistical Information* ([http://www.gso.gov.vn/default\\_en.aspx?tabid=622](http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=622))；2015 年第 4 四半期：Trading Economics (<http://www.tradingeconomics.com/vietnam/gdp-growth-annual>)
- 図 2 International Monetary Fund, *International Financial Statistics*, January 2016 CD-ROM
- 図 3 2015 年 3 月までの消費者物価指数および 2014 年 12 月までの為替レート：International Monetary Fund, *International Financial Statistics*, January 2016 CD-ROM；それ以降の消費者物価指数と為替レート：Vietnam, General Statistics Office, *Monthly Statistical Information* ([http://www.gso.gov.vn/default\\_en.aspx?tabid=622](http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=622)) より推計；2014 年 12 月までの株価指数：Hochiminh Stock Exchange (<http://www.hsx.vn>)；それ以降の株価指数：Fusion Media, *Investing.com* (<http://www.investing.com/indices/vn-historical-data>)
- 図 4 2015 年 8 月まで：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics*, January 2016 CD-ROM；それ以降：Vietnam, General Statistics Office, *Import-export turnover* ([http://www.gso.gov.vn/default\\_en.aspx?tabid=626](http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=626))

#### インド：

- 図 1 2015 年第 1 四半期まで：Reserve Bank of India (<http://dbie.rbi.org.in>)；それ以降：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation ([http://mospi.nic.in/Mospi\\_New/upload/nad\\_PR\\_8feb16.pdf](http://mospi.nic.in/Mospi_New/upload/nad_PR_8feb16.pdf))
- 図 2 International Monetary Fund, *International Financial Statistics*, January 2016 CD-ROM
- 図 3 2015 年 10 月までの為替レートおよび 2015 年 3 月までの消費者物価指数：International Monetary Fund, *International Financial Statistics*, January 2016 CD-ROM；それ以降の為替レート：OANDA Corporation (<http://www.oanda.com/currency/historical-rates>)；それ以降の消費者物価指数：Reserve Bank of India, *RBI Bulletin*, February 2016 ([https://www.rbi.org.in/scripts/BS\\_ViewBulletin.aspx](https://www.rbi.org.in/scripts/BS_ViewBulletin.aspx))；株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/q/hp?s=%5EBSESN+Historical+Prices>)
- 図 4 2015 年 8 月まで：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics*, January 2016 CD-ROM；それ以降：Reserve Bank of India, *RBI Bulletin*, February 2016 ([https://www.rbi.org.in/scripts/BS\\_ViewBulletin.aspx](https://www.rbi.org.in/scripts/BS_ViewBulletin.aspx)) から推計